

つじぎりかなりや
辻斬金糸雀

本作は、「株式会社アークライト」及び「株式会社 KADOKAWA」が権利を有する『クトゥルフ神話 TRPG』の二次創作物です。

Call of Cthulhu is copyright ©1981, 2015, 2019 by Chaosium Inc. ;all rights reserved.

Arranged by Arclight Inc.

Call of Cthulhu is a registered trademark of Chaosium Inc.

PUBLISHED BY KADOKAWA CORPORATION

PC のオカルト好きの共通の友人から最近通り魔がよく発生しているという噂を聞く。
妖怪の仕業ではないかという彼の話に冗談半分で PC たちは通り魔妖怪を探すことになる。

KP 情報と重要な情報

舞台

架空の町、神川町(かみかわまち)。大きめの市にある。



通り魔事件

新聞で知ることのできる内容。PCが日常的に新聞を読むのであれば知っていてもかまわない。知らない場合は湯科から聞ける。

プレイヤーの住む神川町にて殺人事件はここ1ヶ月で5件発生している。最初の犠牲者を除き現在全ての被害者が既に死亡している。最初の犠牲者が「斬られる前にカナリヤの鳴き声が聞こえた」と証言したことから、連続殺人犯のことは通称「金糸雀」と呼ばれる。「金糸雀」は指名手配されているが、性別が男性であること以外本名、容姿全てが不明のため警察の捜査は難航している。

街の外へ出る

PCが何等かの理由で神川町の外に出る場合、この街に起こっている異変について知ることができる。街の外れに向かったPCはいつまでたっても風景が変わらないことに気づく。歩けど歩けど、街の外へ出る気配がないのだ。何分も歩いているはずなのに、中央にそびえたつラジオ塔が遠くにならない。この街から出られないことに気づいたPCはSANチェック(0/1D6)。それでも街へ出ようとする場合は、日が暮れるまで歩き続けても外へ出ることは叶わなかったことになる。

犠牲者リスト

犠牲者の名前は特に重要でないので、何度も名前を聞かれた場合はPLの目の前で命名表を振るなどして"適当に"決めること。

最初の犠牲者

50代後半の男性。唯一即死でなかった。街の病院に入院している。

事件当時のことを聞けば、ある程度教えてくれる。ぴろろろろという音が聞こえたあと、前から袈裟斬りにされた。そのあと男性の声が聞こえたが、うまく聞き取れなかったという。気がついたときには病院の寝台にいた。運ばれた時には左手にカナリヤの羽を握りしめていたという。通報者はオカダという。犠牲者リストには「オカダ」と読める苗字はない。

他の犠牲者

年齢・性別・階層・殺害現場・死亡時刻ともにバラバラ。ただ、最初の犠牲者と同様に鋭利な刃物で斬られた跡があり、死因が傷による失血死であることから加害者は同一人物であると予測されている。

探索者が警察や医者などで、遺体の様子を知ることのできる立場にいるなら、犠牲者検分を行ってもよい。全ての遺体は最初の犠牲者のような袈裟斬りではなく、数か所を何度も斬りつけたように見える。

殺害現場についてはナビゲート、または目星のハード、INTのハード成功で、「殺害現場は街の中央にあるラジオ塔から100メートル範囲内にある」と気づくことができる。

湯科 久晴(ゆのしな ひさはる)

PCの共通の友人。年齢はPCにあわせてある程度変えてもよい。10代後半から20代。趣味は超自然(オカルト)的なものの蒐集。時折怪しげな連中とつるんでいるという噂を聞く。導入役。

街一つを隔離し、取り残された人間の魔力を取り上げながら招来の呪文を作り上げている。日が進むごとに彼のSanは減り、最終日(5日目)にSanが0になる。PCの行動により最終日を迎える前に0になったら、呪文の完成を没頭するようになりPCからの関わりをなるべく減らすようになる。

彼にとって金糸雀は呪文の完成を阻止する邪魔者なので妖怪と認定し、PCと共に抹消しようとしている。

「金糸雀」暮石 健治郎(くれいし けんじろう)

29歳。浪人のような見た目をした士族の男。

牢獄のようなこの街から逃げ出さんとしている。魔術師の家系で、人か人ならざるものかを見分けることができる。魔術師の能力を持つ自分を嫌悪しており自滅思考がある。PCの存在を知ってからはPCの脱出、生存を第一に考えるようになる。

彼にとって湯科は、得体の知れない黒幕の正体であり滅ぼすべき敵である。

日付ごとの行動と取得できる情報

1日目(九月十一日)

湯科から辻斬りの犯人捜索の話を持ち出される。報酬は現代換算5万円くらいで、毎日午前10時に喫茶店に集合し、情報を報告するよう約束させる。

できること

学院、喫茶店で聞き込み(2h)

学院で聞き込みをする場合、PCが学生及び学院の教職員であった場合は判定なしで聞き込みができる。取得できる情報は「通り魔事件」の項目のほか、「犠牲者リスト」の内容を知ることができる。

新聞を調べる(0.5h~)

辻斬り金糸雀事件の概要、殺害現場がわかる。詳しくは「通り魔事件」の項を参照。

被害者に聞き込み(1.5h~)

警察は取り合ってくれない。病院は面会謝絶状態だが、交渉系技能のハード使用で看護婦から話を聞くことができる。

湯科に聞き込みする(1h~)

彼の部屋に行く。彼の家は鍵がないが、彼曰く「盗られて困るものはない」らし

い。部屋の第一印象は「やたら本が多い」。中でも超常現象についての本が部屋に多いことに気づく。本棚を見せてほしいというと快く見せてくれる。本棚の本に探索技能を使用すると、「夢幻研究会 ○月号」と書かれている小冊子を複数見つけることができる。

小冊子を読む(0.5h～)

小冊子の内容は、先月に発生した事件の解説を行っている。大体は政府や軍が裏で糸を引いているとか、封印されていた妖怪や悪霊が復活せんとしている、のような眉唾もの。また、「大正 14 年より、世界は滅亡へと向かう」と書かれたコラムがあり、そのページは開き癖が付くほど読まれているようだ。このページについて、湯科に訊くと、来年から世界が滅亡を開始すること、具体的なことはわからないが滅亡は欧州から始まり、多くの血が流れ、日本も助からない。と教えてくれる。

奥付には夢幻研究会の所在地と電話番号が書かれている。所在地は神川町から遠く離れた場所にあり、すぐに向かうことは現在の交通状況では不可能である。それでも所在地へと向かう場合は、「街の外へと出る」項目を参照する。

本棚に探索系技能を使用する。

本棚の奥行が見た目に反して妙に狭い。湯科に訊くと、しらばっくれる。動かそうとすると怒られる。

2 日目(九月十二日)

朝 10 時の定期報告に湯科は参加するが、用事があると言って早めに切り上げ解散しようとする。

できること

初日とほぼ同じ。湯科は用事があるため、部屋に入れようとしてくれない。ただ、鍵は壊れているので侵入はできる。

湯科の部屋

日記を見つける。日付は飛び飛びでまとまりがないが、超常現象に関する考察や夢幻研究会の月報誌に自らの投稿が掲載されたなどといった内容が書かれている。

文机の上に小冊子「夢幻研究会会報 9 月号」がある。

小冊子を読む(0.5h)

小冊子の内容は 8 月号とほとんど内容は変わらないが、新たに「暮石 健次郎」という名前の男性が 8 月の末から行方不明になっているという項目がある。最後の消息は神川町であるとも書かれている。

暮石健次郎という男について

犠牲者リストには載っておらず、PCの誰にも知り合いはいない。PCが警察関係者である場合、以下の情報を知っている。

- ・暮石健次郎は士族階級の男性である。
- ・浪人のような見た目をしており、ラジオ塔付近の飲み屋街によくいる。

ラジオ塔

マップ情報「ラジオ塔」の項目を参照。

ラジオ塔付近には飲み屋街があり、昼間でも酔っぱらって道をふさいでいる浪人がいる。飲み屋街の店員や客から聞き込みを行う(2h)と以下の情報が手に入る。

- ・暮石健次郎は毎日飲み屋街にいた。
- ・8月の終わりか、9月の初め頃から姿を見せなくなった。ちょうどあの「辻斬り金糸雀」が現れた時期と重なっている。
- ・暮石健次郎が金糸雀なのでは、と思うが、彼が金糸雀を飼っていたとっていたことはいつだってないし、あいつの家から金糸雀の鳴き声なんて聞いたことがない。

3日目(九月十三日)

湯科が辻斬りに襲われるが、(本人曰く間一髪で)攻撃をよけ、辻斬りを捕まえることができた。犯人の名前は「暮石健次郎」。湯科はPCに報奨金を渡し、家に帰る。

//*湯科は暮石を私刑にするため、警察に引き渡さずに工房に隠す。

できること

情報の収集

1日目とほぼ同じ。ただし、午後以降は被害者が死亡するので、病院で情報は取得できなくなる。

警察に聞き込みをする(1h)

神川派出所の警官に話を聞くことができる。辻斬り金糸雀事件の犯人については知らない。湯科久晴が警官に相談したという履歴はない。そんなに犯人に会いたいのであれば、留置所にでも行けばいいといわれる。留置所は神川町外にあるので、留置所へ向かうと宣言した場合は「街の外へ出る」

犯人について

湯科から聞ける。犯人の名前は「暮石健次郎」。神川町1丁目在住の士族の男性。彼は魔術師で、自身の目的のために人殺しを行っていたという。目的については詳しくはわからないが、「神を降ろす」ため、らしい。

湯科の家に行く

玄関の扉をたたいても返事はない。中に入れば部屋には誰もいないことがわかる。本棚が不自然にずれている。

本を調べる

2日目と同じ。小冊子を読む。

本棚を調べる

本棚をずらせば扉があることがわかる。鍵がかかっているが、扉自体が脆そうなので、強い衝撃を与えれば壊れて開くかもしれない。STR か SIZ のハード成功、または STR か SIZ の判定 3 回で、扉を壊すことができる。扉の向こうには下り階段がある。

湯科の地下室

何らかの祭壇があり、地上の彼の部屋とは全く違う雰囲気醸し出している。一人の男性が横たわっている。探索系技能の使用で、1枚のメモを見つけることができる。

地下室のメモ

怪文書が書かれている。きちんと読もうとすると 1/1d3 の SAN チェック。クトゥルフ神話技能の使用で「南天の魚口より来たれ焦焼する義脚 (KP 情報:クトゥグア招来の呪文)」という呪文であることがわかる。クトゥルフ神話に+1%、SAN チェック(1d3/1d6)。

また、他にも怪文書は散らばっており、具体的でない恨み節や世界が近いうちに破滅を迎えてしまうのであれば自分が滅亡させてもいいんじゃないかとかいう文字列を見かける。

地下室の男性

手足を縄で縛られ、猿ぐつわをさせられている。猿ぐつわを外せば、会話は可能。彼の名前は「暮石健次郎」。彼は探索者が信用に足る人物だと認識(階層や職業、あるいは湯科と敵対する立場にある)すると、自身の家の住所と、家にある手記を読むように言われる。探索者は彼を地下室から連れ出してもいいし、地下室に放置してもいい。

暮石の家に行く

小さな木造一軒家。2階の4畳ほどの部屋に布団が置かれている。本棚に探索系技能を使用することで小冊子を見つける。

小冊子を読む

小冊子はどうやら暮石の手記らしい。小冊子を読むことで暮石の行動の真実を知ることができる。また、手記に書かれた本の名前「来たりし滅亡に向けて」を本棚から探すことで、「尽燃せよ脈動する破滅」を覚えることができる。暮石本人から呪文の詳細を聞くと、「湯科に対抗できる呪文」であると教えてくれる。(KP 情報:クトゥグア退散の呪文)。SAN チェック(1d2/1d6)。呪文を覚える場合には、<クトゥルフ神話>に+1%追加される。

暮石の行動理由

- ・8月末に街の外へ出られなくなっていることに気づいた。
- ・ラジオ塔で何かを招来する準備が行われており、その近辺では大掛かりな魔術

儀式の弊害が発生している。魔術の要になっている何かを壊せば問題が解決できるだろうと考えている。

クトゥグア退散の呪文

- ・実行するにはより天に近い場所(神川町でいうとラジオ塔)で行わなければならない。ラジオ塔に乗り込む必要はなく、付近でも問題ない。
- ・夜のほうがより効果を発揮する。
- ・呪文を使うには魔力が必要である。精神力の高い人間でなければ、呪文を使う際によくはないものを見てしまうかもしれない。複数の人で分け合えば、負担は減る。PC全員の消費 MP が 5 あれば呪文は発動され、成功するかどうかは追加の MP で判定する。初期の判定は 5% で、追加 MP が 1 増えると成功率は 5% 増加し 10% になる。

飲み屋街へ向かう

例にもれず、訪れた PC 全員に頭痛が発生する。昼間からいる酔っ払いの浪人や、飲み屋の店員の姿が見当たらず、やけにしんとした場所になっている。原因不明の頭痛に対して SAN チェック(0/1D4)。そのまま調査を続行する場合、うつろな目をした男性(PCの人数-1)人が突然襲ってくる。襲ってきた男性を拘束し、ラジオ塔から離れた場所へ連れていくと、男性は正気を取り戻す。この人は飲み屋街の常連で、暮石健次郎についても知っているが、暮石の行方や、なぜ自分たちが PC を襲ったのかはまったく知らない。

ラジオ塔

マップ情報「ラジオ塔」を参照。

4 日目(九月十四日)

新聞のお悔み欄、または病院で、最初の犠牲者が死亡したことを知る。湯科は喫茶店には現れない。

できることは 3 日目と変わらない。

5 日目(九月十五日)

夕暮れに招来の呪文が完成する。夕暮れまでに PC たちが招来の呪文を無効化できなければバッドエンド。

マップ情報

神川町(かみかわちょう)

地方の城下町から少しはなれた場所にある。文学系の専門学校「神川学院」、ラジオ塔があり、多少栄えている。

ラジオ塔

2丁目にある建物。レンガ造りで屋根に金属の棒が立っている。5階建ての建物。

PCがラジオ塔の付近50メートル以内へ立ち入るととたんに頭痛と吐き気に催される。PCの持ち物に頭痛薬や吐き気止めがある場合、これを飲むことで症状を和らげることができる。症状を和らげることができないPCはSANチェック(0/1D4)。なお、周辺にいる人間は体調異常をきたしている様子はない。

ラジオ塔の扉には「関係者以外立入禁止」と張り紙があり、扉の鍵がかかっている。簡単に侵入することができそうにない。また、裏口には不自然にゴミが積まれている。ゴミの中を探すと、妙な札を貼られた人の頭ほどの大きさの岩が見つかる。岩

黒く、流水で磨かれたように丸い。岩に触れると、頭痛がかなりひどくなる。オカルトに成功すると、札の文様が封印によるものと理解することができる。岩を破壊すれば、頭痛が消え、襲ってくる住人はいなくなる。

ラジオ塔内部

展望台がある。誰かが置いた天体望遠鏡が置いてある。その周りには木箱とメモが散らばっており、何か書かれている。

ちらばったメモ

メモには、何等かの書き写しと思われる走り書きのメモがあった。メモをきちんと読むことで、「南天の魚口より来たれ焦焼する義脚(KP情報：クトゥグア招来の呪文)」という呪文と、この呪文を行う儀式についてのメモであることがわかる。呪文を覚える際は持ち帰って詳しく読み込む必要がある。覚える、覚えなにかかわらずクトゥルフ神話に+1%、SANチェック(1d3/1d6)。

3日目以降に木箱の中身を調べると、中には人がいる。その人は探索者がよく知る人物、湯科久晴である。湯科は探索者の顔を見た後、安心したように箱の外から出てくる。探索者の質問に答えてくれる。

//*KP情報*探索者が湯科の状況を何者かに拉致された被害者だと思っている場合は、「暮石によって閉じ込められた」というテイで話す。しかし、探索者が湯科に対して疑念を持っていると考えている場合は本性を現し、探索者を始末しようとする。探索日が4日目以降の場合は、その場でクトゥグア招来の呪文を完成させ、街の破壊を実行しようとする。

湯科が招来の呪文を唱えだしたときは戦闘が開始され、1d10+3ターンの間に気絶判定以上にならない限り、湯科は招来の呪文を唱え続ける。指定ターンになっても気絶できなかった場合、クトゥグアが召喚され、湯科は自動気絶する。クトゥグアについてはルールブックを参照。

神川学院

2丁目にある文学系専門学校(私立大学)。基本的に女性が入り出すことはないため、女性がいると目立つ。

学院図書館

学院の敷地内にある図書館。誰でも入ることができるが、学生証がなければ本を借りることはできない。

病院

3丁目にある内科病院。最初の被害者が入院している。被害者は面会謝絶状態。だが、PCが医療従事者あるいは交渉系技能のハード使用で看護婦から話を聞くことができる。

1日目	被害者40歳代の男性。一連の事件で唯一即死でなかった。
2日目	取得できる情報は犠牲者リストを参照。
3日目	昼ごろに被害者が死亡する。
4日目、 5日目	病院で手に入る情報はない。

喫茶店「Eons」(えいおんす)

この街の大学「神川学院」の近くにあるカフェで、学院生のたまり場でもある。夕方以降は酒の提供もしている。PCはシナリオ中毎日午前10時に集合し、前日の調査結果について報告しあうことになっている。本日の新聞が置いてあり、バックナンバーはマスターか給仕さんに訊けば読むことが可能。交渉系技能の使用で街での噂が聞ける。

1日目	事件の概要、殺害現場を知ることができる。5件のうち3件が1丁目で、残り2件が2丁目で発生している。
2日目	取得できる情報は1日目と同じ。
3日目	10時の定例で、湯科が犯人を捕まえたことを報告する。
4日目	湯科は喫茶店に来なくなる。新聞の「お悔み」欄にて、辻斬りカナリヤ事件の最初の被害者が死亡したことが判明する。

夢幻研究会(むげんけんきゅうかい)

所在地は神川町ではなく、隣の町の住所。電話をかけることはできるが、非会員からの電話は超常現象のタレコミのみを受け付けているらしく、質問には答えてくれない。

湯科について、あまり最初は取り合ってくれないが、交渉系技能を使用することで、「定例会にも参加しない、幽霊会員である」とわかる。

神川町



キャラクターデータ

湯科 久晴 23歳 男性

STR	65(32/13)	DEX	55(27/11)	INT	75(37/15)
CON	65(32/13)	APP	55(27/11)	POW	45(22/9)
SIZ	60(30/12)	EDU	55(27/11)	MOV	8

SAN (正気度) :45

アイデア:75

知識:55

耐久力:12

マジックポイント:9

興味技能ポイント:150

ダメージボーナス:+1D4

ビルド:1

暮石 健次郎 29歳 男性

STR	65(32/13)	DEX	55(27/11)	INT	60(30/12)
CON	65(32/13)	APP	60(30/12)	POW	65(32/13)
SIZ	60(30/12)	EDU	60(30/12)	MOV	8

SAN (正気度) :65

アイデア:60

知識:60

耐久力:12

マジックポイント:13

興味技能ポイント:120

ダメージボーナス:+1D4

ビルド:1

使用フォント

游明朝

MS ゴシック

衡山毛筆フォント

暮石の手記

暮石の書齋を訪れた際に取得できる手記です。

フレージャー的なもので、ロールプレイ重視の際は提示すると思います。

大正十三年 九月四日

今日より魔術の師である祖父に従い、ここに俺の思考や認識を書き留める。

本日午後六時頃、魔術的な干渉を受けた。認識阻害のものである。動機や範囲は不明。継続的に干渉がある可能性があるので、書齋に干渉から守る結界を張った。この時間から外を歩くのは不審に思われると考え、今日は結界内で待機し、この手記を書いている。

魔術を行使する一族で育ったことを嫌悪し、家を飛び出した我が身には、この干渉は俺を魔道へ呼び戻さんとする父とその手下の怪の思惑と勘繰ってしまう。一度、魔道に触れたものは魔道から逃げることはできないということなのか。

明日は街をまわり、魔術の形跡を探ろう。父の手先であれば物理的に消せばよい。

大正十三年 九月五日

午前五時 起床、肉体的にも魔術的にも問題はない。俺を狙った魔術干渉ではないようだ。午後二時に歩ける範囲で魔術の形跡を探るが、さすがにわかりやすいところにはないものだ。馬車を使い街の外の様子を探ると、街の外に繋がる道路を通ろうとしない。そのことを御者に伝えても、なぜその道を使わないのか御者自身もよく分からないようだった。何度試しても同じだった。御者は干渉を受けているようだが、街

の外に出る道以外の思考に問題はないように思える。歩いて街の外に出る。外へ出ようと歩けど歩けど同じような道が続き、帰ろうとするとすぐに街へ戻れた。どうやらこの認識阻害はこの街に出ないためのものらしい。

魔術を行使し、無理矢理に外に出ようとするれば術者に怪しまれるだろうと判断した。脱出手段が見つかるまでは巨大結果から出ることは諦め、内側から解除できる方法を探すでしょう。

大正十三年 九月六日

(前略)

術式妨害の札を懐へ入れ、街の中央へ向かう。ラジオ塔の一角に魔法陣が隠されており、そこを中心にこの街の異質な空間を作り出しているようだ。ラジオ塔の付近でたむろする酔っ払いどもが、俺の姿に気づくと即座、襲いかかってきたので、咄嗟に刀を抜いてしまった。胸から血を流しながらゆっくりと倒れた。深く斬ったわけじゃない。病院に行けばまだ助かるだろう。俺は彼に応急治療と記憶改竄の魔術を施した。俺の姿を曖昧にさせ、近くに落ちていた小鳥の死骸を置いた。彼の、記憶、は猟奇事件の証言として新聞に載るだろう。近くにあった自動電話で警察へ繋いでもらい「ラジオ塔に死体がある」と伝えた。名前を聞かれたので岡田と名乗った。

(中略)

ラジオ塔の術式を見る限り、魔術に造詣が深いわけではなさそうだ。稚拙だが、神格の招来の魔法陣としては十分に機能するだろう。この魔法陣は街に住む人々から少しづつ何かを招来するための魔力を奪っているようだ。

大正十三年 九月九日

黒幕に届いたのか、今日までで～人の犠牲者が出た。今回の犠牲者は発見時既に息絶えていて、ご丁寧に金糸雀の死骸とともに藪の中にあつたらしい。新聞は大々的にこの猟奇的殺人事件を載示し、下手人を「辻斬金糸雀」と名付けた。

表だつて行動すれば黒幕に見つかる前に警察の御用となつてしまふだろう。誰か自分の代わりに黒幕を見つけてくれないものだろうか。

(後略)

大正十三年 九月十日

(前略)

ラジオ塔の魔法陣は、どうやら「生きる炎」を招来するものようだ。招来する対象がわかれば対処は可能である。本棚に「来たりし滅亡に向けて」という、外からくるあらゆる人ならざるものを退ける呪文を書き留めた覚書があつたはずだ。

生きる炎——燃える脚、脈動する破

滅。呪文を唱えられるだけなら一夜漬けでもできるが、安定した呪文の発動ができるようになるには骨が折れそうだ。

(後略)

大正十三年 九月十一日

喫茶店にたむろする若者は机上の空論ばかりを討論するろくでもない集団ばかりだと思つていたがそうでもないようだ。若者の会話を聞いていると、辻斬りカナリヤ事件の犯人捜しをするようだ。どうやら黒幕は仲間を使つて俺のことを探しまわるようだ。

仲間は、魔術に関する知識はないように聞こえる。彼らが悲惨な目に合わないことを願うばかりだ……。

(後略)

